

令和5年度

益田市総合教育会議会議録

日 時 令和5年12月14日（木）14：30～

場 所 益田市役所 第2会議室

益田市教育委員会

益田市総合教育会議

開催年月日 令和5年12月14日（木）14時30分～

開催場所 益田市役所 第2会議室

日 程

1 市長あいさつ

2 議事

（1）益田市型中高一貫教育について

・これまでの取組と今後の展開について

（2）その他

出席者

総合教育会議

益 田 市 長
教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

山 本 浩 章
高 市 和 則
梅 津 富美子
大 庭 隆 志
齋 藤 哲 瑯
原 田 笑

事務局職員

教 育 部 長
教 育 総 務 課 長
学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事
学 校 教 育 課 参 事
教 育 総 務 課 長 補 佐

長 嶺 勝 良
志 田 原 涉
田 原 正 紀
杉 原 貴 宏
房 野 登美裕
齋 藤 勝 義

志田原課長

皆さん、こんにちは。

定刻より少し早いですが、皆さん揃われましたので、ただいまから令和5年度益田市総合教育会議を開会いたします。

私は教育総務課の志田原です。どうぞよろしくお願いいたします。本日の会議におきましては、公開となっております。本日、傍聴希望がございましたが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ご入室いただきます。

今年度初めての総合教育会議となりますので、いま一度、総合教育会議とはどういったものかというところを教育部長の長嶺から説明をさせていただきます。

長嶺部長

それでは、貴重なお時間をいただきまして、私のほうから総合教育会議というものがどういったものかというのをおさらいの意味でお話をさせていただこうと思います。

この総合教育会議という部分でございますが、そもそも国のほうで教育委員会制度というものの見直しが必要であるということが、平成23年、滋賀県の大津市のいじめの事件をきっかけに議論になりまして、教育委員会制度が大きく見直されたという部分になっております。法的には地方教育行政の組織及び運営に関する法律という部分が一部改正されまして、各自治体において総合教育会議を設置しなさいということがあるという状況です。

この会議の主な趣旨でございますが、教育に関する予算の編成、執行、それから条例の提案というような重要な権限を有している益田市長、首長ですね、地方自治体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図る必要があるというところで、併せて地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するということが必要であるというところから設置すると言われております。大きくは、教育大綱の策定に係る、そうした協議の場であったり、今回お話が出てきますような教育を行うための諸条件の整

備、地域の実情に応じた教育、重点的に講ずべき施策ということについてしっかり議論をなさйтеということ。それから、児童・生徒などの命または身体に現に被害が生じというような、命の危険を要する緊急な場合の対応についてもしっかり議論してくださいということがうたわれているという状況です。

この会議は、定例の教育委員会と違うように、席も見ていただいたら分かるように、普通は教育長が前、事務局が後ろへ並んで、事務局と皆さんのやり取りということで動いている定例教育委員会とは違ひまして、教育長もここに構えてという形になっております。市長、首長の教育に対する考え、それから施策について、教育委員の皆さん、いわゆる教育委員会のトップにおられる皆さん方としてしっかり協議、調整をするという場になっているということでございます。こうした協議、調整をした結果に基づいて、それぞれの立場でしっかり政策を推進していくというのが本来の趣旨になります。

また、この会は、市長が招集をするという形になっています。法律の性質上、本来、事務局というものは市長部局に置くべきということが法律でうたわれています。しかしながら、益田市の場合は教育委員会が事務の委任を受け、教育総務課で事務局の事務を所掌しているということで、今日まで動いているという状況であります。今日のところで、先般も益田東高校へ行っていろいろ見ていただきましたので、それを踏まえて今後どうあるべきなのかということをしかり議論いただけたらと、新年度へ向けていろんな意思疎通を図っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、簡単ですが、総合教育会議というもののご説明をさせていただきました。

志田原課長

それでは、議事に先立ちまして、市長から挨拶をお願いいたします。

山本市長

皆さん、こんにちは。

まずは、本日、年末も押し迫って大変お忙しいところ、教育委員の皆様には令和5年度の益田市総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃から益田市の教育行政、また行政全般につきまして、ご理解、ご協力を賜っておりますことに改めて感謝を申し上げます。

さて、この総合教育会議という会議につきましては、先ほど長嶺部長からも説明がありましたように、地方公共団体における首長と教育委員の皆様方が教育施策について協議、調整をするという場となっております。協議、調整でありますので、ここで何かを決定するというものではありませんで、皆様方と率直な意見交換ができれば、そしてそれを教育施策に反映できればと思っておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。

本日の議題といたしましては、益田市型中高一貫教育を特に取り上げております。この事業につきましては、広く児童・生徒の学力育成を図る仕組みと環境をつくるために、中学校と高等学校の教育活動を一貫した流れの中で実施するというものでございます。この取組について、先般、益田東高校の実例を視察いただきましたが、改めてこれからの取組を説明させていただくとともに、皆様方から今後の展開についてご意見をいただき、協議したいと考えております。では、どうぞよろしくお願いいたします。

志田原課長

それでは、議事の進行に入りたいと思いますので、議事の進行につきましては山本市長のほうにお願いいたします。

山本市長

それでは、早速議事に入ります。

まず、益田市型中高一貫教育について、これまでの取組と今後の展開について、まずこれは事務局のほうから説明をお願いします。

田原課長

それでは、私のほうからご説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。

まず、背景的なところでご説明をさせていただきます。

益田市型中高一貫教育に係る取組について（令和5年度版）とい

う資料をご覧ください。

大きく3つの事業を推進することで中高一貫教育に取り組んでいこうということで定めているところです。1つは市内高校連携推進事業ということ、それから2つ目には理数系人材育成協働事業、そして3つ目には中高連携学力育成推進事業ということで、大きくこの3つの事業をもって事業進捗を進めていこうということで取り組んでいるところでございます。

それぞれの事業の中身につきましては、次の資料のほうでご説明をさせていただこうと思っております。

令和5年度益田市型中高一貫教育に係る取組状況ということで準備しておりますけども、まず事業番号の1番から5番につきましては市内高校連携推進事業という位置づけの中で実施しているものでございます。

まず、No.1です。

こちらの事業については翔陽高校と連携して取り組んでおる事業でございます。大きく事業の内容といたしましては4点ございまして、まず1番目ですが、産業の魅力発信業務ということで、これは通年で実施いただいております。具体的に申し上げますと、翔陽高校、4つの学科がございまして、それぞれの学科の専門性に応じて、実習や体験活動を実施しているということでございます。

まず、生物環境工学科につきましては、8月7日の日に高津公民館と連携しながら、野菜や作物、草花、土木部門の実習体験を実施し、小学生が32名参加しているところでございます。

それから、8月3日、8日、11日ということでございますけども、総合学科、それから電子機械科の生徒が、作って遊ぼうということでビーズアクセサリやペーパービーズ並びにパラシュートや大きなシャボン玉作りの体験を実施しております。小学生が30名、大人が10名参加して実施をされております。

それから、総合学科につきましては、12月以降ということで、

これから予定されるものもありますけども、調理体験や被服体験ということで実施を予定されております。

そして、あと出前授業というのもやっております、農業土木の関係で中学生を対象に体験、出前授業というのを行っております。農業土木で使われるユンボとかドローンとかトラクターだとか、そういった機械の操作の体験であったりだとか、それから具体的に農業水路の補修についても一緒に実施をしているといった取組が行われております。

続いて、大きく2つ目は地産地消の業務ということで、翔陽高校でGAP米の栽培実習をされております。それに係る田植と稲刈り体験ということで、市内の小学校、中学校の参加を得て体験活動をしております。参加人数についてはお読み取りをください。

そして、そのほかでございますけども、cとdというふうに記載をしております。地域連携による技術実証や技術活用の業務並びにdとして体験・交流による地元就職意識の向上業務ということで、それぞれ、こちらにつきましては高校生と企業であったり、農家さんであったり、農林大学生だったりといったところで取組を実施されておるところでございます。こうした活動につきましては、未来協働フェスタの中で、それぞれの取組の発表や、またその体験ということで実施をしたというところがございます。

続いて、No.2です。

No.2につきましては、益田高校と連携をして取り組んでいる事業になります。大きくはサイエンスキャンプと出前の実験・理科読を楽しむ会ということで、大きく2つ実施をされております。

まず、サイエンスキャンプにつきましては、島大の教授をお呼びして、鑄造体験ということでオリジナルのキーホルダーの作成を実施されております。中学生の参加は少ないですけども、6名ということで、高校生も交えて体験をしたところがございます。

それから、出前の実験・理科読を楽しむ会につきましては、これ

はまだ今後の予定も含めてありますけども、市内の小学校を対象にして実験を披露したり、また参加している小学生に体験をしてもらうという中で、小学生に科学に対して興味関心を持ってもらうという取組でございます。参加される小学校につきましては、そこに記載があるとおりでございます。お読み取り願います。

続いて、No.3の明誠高校を対象としております事業でございます。

明誠高校につきましては、社会貢献活動や、それからキャリアサポート事業という中で市内の公民館との協働活動、それから学校の授業でのふるさと教育や福祉科の実習、そして市内企業への訪問などを実施されているところでございますけども、今年度につきましてはそういった協働活動、それから交流活動に必要な新たな交流の場の整備を行っております。整備の状況につきましては、資料の写真にあるとおりでございますけども、環境整備をすることで今後の協働活動、交流活動に生かしていきたいということでございます。

それから、No.4、益田東高等学校の関係です。

こちらにつきましては、今年度、中高連携学力育成推進事業の受託者として東高等学校さんと協働してやっておりますけども、それに係る教室の改修ということで実施をされています。ドリカム教室という名称で今年度新たにスタートした取組でありますけども、市内の小学生、中学生の学習する場ということで環境整備を行っております。

続いてでございます。No.5です。

No.5につきましては、こうした市内4校の取組を一体となって魅力発信していこうというものでございまして、事業主体につきましては益田市未来の担い手育成コンソーシアムということになっております。こちらの事業につきましては全て完了しておりまして、今年度7月7日、8日の2日間にかけて未来協働フェスタ202

3を開催しております。参加された小学生につきましては359名、それから中学生については125名で、高校、一般を含めて950名の参加を得ているところでございます。それぞれの内容につきましては、そこに記載をしているとおりでございます。お読み取りいただきたいと思います。

加えて、市内の4高校の紹介冊子というのを作成しております。こちらにつきましては、市内の小学校6年生と中学校3年生に対して配布をしているところでございます。

続いて、No.6、7です。こちらについては、理数系人材育成協働事業ということで実施をしたものでございます。

まず、No.6でございます。

こちらは松江高等専門学校と協働して実施をしたものでございまして、夏の工作教室、それから小学校5、6年生及び中学生を対象とした高専祭への参加、見学ということ、そして市内の小・中学校の教職員との交流研修ということや、益田翔陽高校と連携をしたプログラミングの実施、そしてこの冬には冬の工作教室ということで予定をしておるところでございます。参加者等については資料のほうでお読み取りください。

そして、No.7です。

こちらにつきましては、島根大学と協働して実施しております算数・数学パワーアップ教室でございます。今年度については、夏5日間、冬3日間、春3日間ということで、計11日間計画をしているところでございます。夏休みにつきましては既に実施済みということで、これまでも、本年度は3年目になるわけですが、今までで一番多くの参加者を得ております。それぞれの会場での参加人数については資料に記載してあるとおりでございますけれども、大学生に来ていただきまして、様々な講義を運営していただいております。回を重ねるごとに大学生に主体的に講義の内容を検討していただいて実施をしているところでございますけれども、年齢も近いとい

うこともあって子どもとの距離を縮めるのが、大学生、たけているなというふうに感じているところでもございます。今年度、冬、そして春も予定しておりますけども、冬についても、まだ今集約中ですけども結構な人数の参加の募集があるといった状況でございます。

それから、最後になります。No.8です。

中高連携学力育成推進事業ということでございます。今年度について、これは益田東高等学校さんと業務委託により実施をしているところでございます。先ほど冒頭の話でもございましたけども、この事業については高等学校との連携、協力を通じて主体的学びの定着をすることで学力育成を図り、さらに高等教育機関の進学先を自由に選択できる学力を身につけることによりまして、高等学校卒後の選択肢の充実を図っていくという取組でございます。対象者は小学校5年生から中学校3年生までということで、内容といたしましては、小学生については夏休みや冬休みといった長期休業期間中を期間として読書感想文や自由研究、プログラミング講座や英語パワーアップ講座を実施しているところでございます。それから、中学生については、平日の夜間学習ということで、火曜日に英語、水曜日に数学ということで実施をしています。休日については、土曜日に2時から5時という3時間で実施をしています。講師につきましては、東高の教員の方や、それから外部から手配した講師の方、そして高校生につきましても学校のほうで人選していただいて、支援員という格好で指導に入っているところでございます。それから、3つ目としては、学びの楽しさを伝えていこうという取組を実施しています。既に10月9日、グラントワのほうで1回目を開催しておりまして、鶴崎修功さんという東大卒のクイズプレーヤーということで、講師にお招きし、講演会を実施しております。198名の参加をいただいているところでございます。

このドリカム教室という名称ですけども、申込み状況につきまし

ては小学生が15名、中学生が31名ということで申込みを受けて、今年度末に向けて授業を進めているという状況でございます。以上がこれまでの今年度の取組ということでございます。

そして、今後の展開という部分でございますけども、こちらについては、基本的な考え方といたしましては先ほどお示ししました3つの事業、市内高校連携推進事業、それから理数系人材育成協働事業、そして中高連携学力育成推進事業、この3つの事業の内容を精査しつつ、引き続いて事業を継続して目的達成に向けて取り組んでまいりたいと、このように考えているところでございます。簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

山本市長

それでは、皆様方から自由にご意見等、またご質問等もいただければと思いますが、先ほどの説明にありましたように、益田市型の中高一貫教育の取組としましては、事業名で言うと3つあります。市内高校連携推進事業については、その中で5つ、具体的に高校なりコンソーシアム中心に実施しておりますし、理数系人材育成協働事業については松江高専との取組と、島根大学との取組である算数・数学パワーアップ教室。算数・数学パワーアップ教室は高専の学生は対象外でしたっけ。

田原課長

参加はいただいております。

山本市長

そうですね。こちらのほうは、算数・数学パワーアップ教室については高専の学生さんにも参加いただいています。中高連携学力育成推進事業については、今年度から益田東高校さんと取り組んでいるということです。

今日は、できればご議論いただく内容としては、教育委員会が主体となっております算数・数学パワーアップ教室と中高連携学力育成推進事業、資料で言いますとちょうど最後のページになります。この2つを主に議論いただければと思っております。

それでは、どなたからでも、またご自由にご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

大庭委員

すみません。

山本市長

はい。

大庭委員

本題に入る前なんですけども、ここにいわゆる益田市型中高一貫教育に係る取組についてということで、先ほど市長さんからご質疑ありましたけども、私もそのことを言おうと思っていたんですけども、いわゆる島根大学さん、それから松江工業高等専門学校さん、それぞれ理数系人材育成協働事業というのがあるかと思うんですけども、実際のところ、算数・数学パワーアップ教室、これは島大生だけではなくて、今年度はたしか都合が悪くて高専は来なかったと思うんですけども、昨年度はたしか来ていたと思います。それで、このままの状態でしたら島大生しか関わってないというような変な誤解を受けるおそれがありますので、その点は少し図を更新していただくということが必要じゃないかなということと、それから一番下のところなんですけども、3番目の取組で、いわゆる中高連携学力育成推進事業の、これについては令和5年度の中で益田東高校さんに引き受けてもらったわけなんですけども、実際に市内高校ではなくて、ここも令和5年の段階で益田東高校さんがやっていますので、ここも益田東高校とはっきり固有名詞を出して、令和5年度版のこの図をしっかりと更新して、もっと分かりやすくしていただいたらなというふうに思っています。その2点が気になりました。

山本市長

分かりました。そうですね。算数・数学パワーアップ教室については、おっしゃるとおり松江工業高等専門学校の学生に協力いただいていますので、何らか資料の更新が必要かと思います。

もう一つ、中高連携学力育成推進事業については、今年度は益田東高校さんに委託するわけですが、これ、来年度以降については、今、基本的にはどういう考えでありますか。事務局に確認したいと思います。

田原課長

今年度もこの事業をするに当たっては市内4校に声をかけまして、それぞれの4校から提案を募集して、その審査の結果、益田東

高等学校さんに決定をして事業をしております。

来年度の事業につきましても、現時点では同様に4校に声をかけて、その中で審査をして相手方を決定したいという考えで現時点はおるところです。

山本市長 そうですね。基本線はそういうことになります。ただ、これは率直に申し上げますと、いわゆる事業の継続性というのも重要ですし、また1年実際にやっていただいたという実績がありますので限りなく益田東高校さんに引き続いて取り組んでいただきたいと思っておりますし、また益田東高校さんについても同様のお考えであろうかと思っております。その実際面と、この資料で表すかどうかっていうのはまた微妙なところがありまして、もう益田東高校さんに決め打ちなのかという外見を持たせるのもやや問題がなきにしもあらずですので、その辺も考慮して事務局のほうで検討させたいと思いますが、いかがでしょうか。

大庭委員 私が思うのは、令和5年度版とありますので、一番上のところに。一応新規事業なんですけども、年度の途中で高校が決定しましたので、まだ今、令和5年ですので、これを示す上で市内高校という言い方よりも、実際に資料の中でも具体的に東高校さんのいろんな具体的な取組が出ていますので、これはあくまでも令和5年度版のものになりますので、やっぱり固有名詞で学校名を上げていたほうがいいんじゃないかなと思っています。

山本市長 分かりました。どうですかね。

田原課長 じゃあ、ご意見いただきましたので、それに沿って今後の資料の掲載等については留意したいと思います。

山本市長 そのほか。

 はい、どうぞ、齋藤委員さん。

齋藤委員 この取り組みについて3つの事業があり、項目には何々事業費と書いてあるだけで必要経費等が上がっていません。予算額を一応入れておいてもらったほうが理解しやすいかなというのが1つと、も

う一つ、4つの高校で審査を行って東高校に決めたということですが、その審査っていうのはどういう内容なのか、予算など中身の問題などが分かりません。事業の展開、対応などをもう少し具体的に教えていただければと思います。

それから、今市長の話にありましたように市内全校に本当は依頼したいということのようであるとすれば、令和5年度については東高校において実施、次年度以降についてはさらにまた検討するということは、あってもいいかなと思いますが、いかがでしょうか。

以上です。

山本市長

ありがとうございます。

最後の件につきましては、再度事務局で検討してほしいと思います。1件目と2件目については、事務局のほうから答えをお願いします。

田原課長

事業費の掲載につきましては、予算額を掲載していこうと思います。

まず、市内高校連携事業費について4つの高校につきまして事業費は100万です。真ん中の中高一貫推進・4高校連携魅力化発信業務につきましては300万でございます。そして、理数系人材育成協働事業費につきましては、それぞれ島根大学のほうは500万で、松江高専のほうが、ここがちょっとすみません、確認をさせていただきます。そして、中高連携学力育成推進事業につきましては約480万ということでございます。

それから、続いて選定の関係についてでございますけども、一応選定委員会というものを設置しております。委員については、市役所内の部長級3名と、それから中学校の校長会の代表者1名ということで、計4名の選定委員さんの中で審査をしていただいております。審査する内容につきましては、それぞれ提案していただいた内容と、それから事業費、両方を総合的に勘案して審査をしたところでございます。それぞれの審査に当たっての基準や評価点数につい

ては、あらかじめ定めて、委員さんに説明をして、そして高校側にも審査基準と点数については公表して実施をしたところでございます。

齋藤委員 もう一つ続けてお聞きします。中高連携学力育成推進事業として5年度480万計上されています。来年度、もし増えるとすれば、当然この予算では足りないですね。

山本市長 増えるというのは相手方……。

齋藤委員 もう一校とか、2校が増える……。

山本市長 そういう想定はしておりませんで……。

齋藤委員 してないんですか。

山本市長 令和5年度においても、4校に門戸を開いて委託先として応募をいただきました。令和6年度についても、基本的には門戸を開いた形で再応募したいという考えです。ただ、委託先は1校ということです。

齋藤委員 そういうことですか。

山本市長 ただ、先ほど申しましたように継続性も重視しないといけないんじゃないかということです。

齋藤委員 そうですね。継続性は大事ですからね。

山本市長 そのほか、いかがでしょうか。

 はい、梅津委員さん。

梅津委員 算数・数学パワーアップ教室の件ですけれども、本当に定着していてとてもいいことだと思います。参加しやすいようにいろいろと地域を回っておられるところ、とてもよいことだと思いますし、大体のところはもう回っておられるのかなと。この冬も美都でもありますし、行っておられないところはないかな。匹見ぐらいですかね。

高市教育長 匹見とかですね。

梅津委員 それはちょっと難しいんでしょうけども、漏れなく行ってもらいたいと思います。人数的には送迎が、保護者の送迎になると思い

ますけど。

高市教育長

算数・数学パワーアップ教室、今、梅津委員からもお褒めをいただきましたけれども、市民学習センターだけですと子どもたちが、来やすい子もいるし、来にくい子もいるだろうというところでの、いろいろな地域で開いているという状況です。基本的には、市民学習センター以外の場所の選定というか決め方ですけれども、1つはこちらから声をかけたりとか、あとは地域からもやってほしいという要望があったりするところは優先的にという形になりますので、そういったところを踏まえながらやっていこうと思っています。ただ、これのよさを経験してみないと、もう一回やってほしいとか、やってほしいっていう意見も、これはなかなか出にくい部分もあるかというふうに思っています。ですので、先ほどまだやっていない地域の例として匹見地区はまだ開催をしていないところですが、そういったところに関してはこちらからも、ある意味行政的な意図を持って声かけをして、やるということも必要になってくるのかなというふうには思っております。

田原課長

みません、理数系人材育成協働事業費の松江高専のところでございますけども250万でございます。

山本市長

中高連携学力のほうは480万。

田原課長

細かく言いますと481万7,000円でございますけども、約480万です。

山本市長

そのほか、ご意見ある方。

原田委員

算数・数学パワーアップ教室についてお伺いします。これまで数年間取り組みを続けてきた中で、次年度に向けての改善点や新たな取り組みがあれば教えてください。

杉原参事

今まで以上に大学生とか高専生の主体的な企画というところを多く取り上げていきたいなというところと、今1人1台タブレットの持ち帰りということが進んでおりますので、そういったものを活用した学習ということも少し考えております。

原田委員 学生の皆さんに主体的に授業を任せるとするのは、一から学生の皆さんが作り上げていくということでしょうか、それとも大まかな希望を伝えた上で学生の皆さんが作られるということでしょうか。

杉原参事 はい。

 学生さんと相談をしながら進めております。こちらの意図もありますし、学生さんたちが伝えたいこともあったりもするので、そういったところを協議しながら内容等を決めているところでございます。

原田委員 これまで数年間の実績を積み上げられて、同じ学生の方が何度も教えに来てくださっているというせっかくの実績がありますので、益田の子どもたちはこういう部分をもう少し重視して取り組んだ方がいいなど、これまでに出了た学生の皆さんの意見をいかして、プログラムに組み込んでいただけたらと思います。また、アンケートの内容について、もう少し精査すべきではないかと思います。抽象的な質問や答え方が多く、具体的にどういうふうに変わったのかが見えにくいように思います。実際に教室に参加してどう変わったのか、今後にどういかしていきたいのかがわかるようにして頂きたいです。また最初と最後に同じテストをやってみて理解度を比べたりするとか、実際に子どもたちがこれくらいできるようになったという実感を得られるような場面を設けていただきたいと思います。私も教室の見学に行かせて頂きましたが、子どもたちがすごく楽しそうに受講していて、先生でもない、家の人でもない、第三者から授業を受けられる、勉強を教わるというのはすごくいい機会だと思います。それが楽しいで終わってしまうのはもったいないので、このお姉さんが高専に入るために小学校のときに一体何をしていたのか、中学校のときは1日どれくらい勉強していたのかということなどをもう少ししっかりと伝える時間、枠組みをつくっていただきたいと思います。もう一歩今後は踏み込んだ取り組みを進めてみていいのではないのでしょうか。

山本市長

どうも貴重なご意見ありがとうございます。このパワーアップ教室については、参加する生徒さん、リピーターも相当多いですし、それから来られる学生さんについても重ねて来ておられる方がおられますので、そういった追跡できるような体制も必要かと思えます。これまではずっと単発単発を繰り返してきておりましたので、なかなか3日とか4日ぐらいの授業で具体的な学力の向上というところまでできなかったかもしれませんが、今後そうした継続も踏まえてこの事業を進めていければと思いますので、貴重なご意見に対して今後改善していきたいと思います。そのほかに関しては。

大庭委員

算数・数学パワーアップ教室の説明を聞いておまして、年々子どもたちも増えておるといことなんです。それで、ここに示されている人数が3日間ないし2日間のいわゆる延べ人数ですから、同じ子が何人かダブっていると思うんですけども、こういった算数・数学パワーアップ教室へ参加するきっかけとか、それから先般、東高校からいただきましたドリカム教室のアンケート、保護者対象でしょうか、このアンケートを見たときに、ドリカムにしても、それから算数・数学パワーアップ教室にしても、入るきっかけは一体何なのかなということをもとにふと考えるんです。多分、案内のチラシとかそういった情報は子どもたちに行っていると思うんですけども、特に東高校のほうで気になったのは、ドリカム教室に参加したきっかけでチラシを見て興味を持ったというのが57%ですから約6割近くいるんですけども、じゃあ見たときに、学校の現場の先生に勧められたというのが、これが4.8%。これと、いわゆる算数・数学パワーアップ教室、これについてもチラシは配るけども、学校の現場の先生方がどのぐらい働きかけてもらえたかなというところが少し気になっております。こんないい機会、やっぱり体験してみて、参加してよかったと思う子が多分かなり出てくると思うんです。ですから、子どもの判断とか家族に任せるのではなくて、もう一押し、例えば身近なそういった担任の先生とか、そういった学校側の

職員が参加するきっかけをつくってくれるような、そういった強力な後押しがあれば、もっともっとせつかくのいい機会を逃さない子どもたちが増えるんじゃないかなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いしたいなと思います。

山本市長

ありがとうございます。これについては、どうでしょう、教育長。

高市教育長

非常に重要な視点だというふうに思っております。先ほどご紹介いただきましたけども、算数・数学パワーアップ教室でも、明確な形でのアンケートではないのですが、参加した子に参加した理由は何かって聞くと、大体保護者の方の勧めがあって参加するというのが、あのときに7割ぐらいだったかな。

あとは、今まで参加しているから楽しいから来たっていう子と、あとは友達に誘われたっていうのがそれぞれ半分半分ぐらいだったかなというような状況でした。そういった意味では、保護者さんの働きかけ。学校から勧められたって聞いたんですけど。

杉原参事

それは聞かなかったです。

高市教育長

でも、恐らくドリカム教室とさほど変わらない状況ではないかというふうに思っています。この事業であったりとか、東高校さんにやっていただいている事業の位置づけをどうするかっていうところは、これは非常に悩ましいところがあるかと思っています。ただ、私個人としましては、やはり学習活動なので、子どもたちの自主性、自発性を最も重視したいというふうに思っているところです。算数・数学パワーアップ教室のほうは、保護者さんから、あんた行きなさいと言われて来たという子が7割ぐらいだということで、まあそういうことになるのかと私個人としては残念な思いをしたのですが、ただ特に学校からの働きかけという形になると、意外と保護者さん、家庭からすると、何か強く働きかけをされたんじゃないかと受け取られる部分もあるんじゃないか、学校側からこういうのがあるからねって紹介してくれる程度だったらいいのかなと

思いつつ、そこをどうするのかっていうのは少し悩ましいところがあると思っています。ただ、かといって全く別、いわゆる学校とつながりが全く切れているわけではない。特に子どもにしてみれば、学校での勉強も、例えばこういったところの勉強っていうのも、それぞれ全く独立しているものではなく、つながりがあるものであるということなので、1つは学校の先生方にこの授業を見学してもらって、どういうことが行われているのかっていうのを知ってもらう、まず見てもらうっていうことは非常に重要なポイントかなと思っています。その中で、例えば先生方が案内してみようかなというふうにしてもらったりとか、場合によっては、この子が行ったほうがいいんじゃないかっていうのも多分あるんじゃないか、先生方が思われたりする機会っていうのがあるんじゃないかと思うので、かといって、でも何となく市が学校と違うところでやっている教育活動なので僕らはよく分かりませんっていうのが基本的なスタンスだと思うので、そこら辺についても教育委員会側として学校の先生方に手伝ってもらえるぐらいになればもっといいんでしょうけど、そこまでは言い過ぎにしても、どういったことが行われているのかっていうのを知ってもらう機会っていうのは意図的につくっていかないと、この事業のよさっていうのが広く市民の方々に提供できるっていうことは、ちょっと難しいところは出てくるんじゃないかなというふうには思っています。そこら辺、やり方をどういうふうに学校に知ってもらうようにやるのかっていうのは、ぜひ先生方からもアドバイスとかヒントをいただきながら、最終的には事務局で考えるにしても、やっていけばなというふうには思っています。ただ、校長会を通じて、来なさい来なさいって言ったところで、難しい部分はあるんじゃないかなというふうには思っていますので、いい方法が何かあればなというふうには思っております。

山本市長

大庭委員さんがおっしゃった、学校の先生方からの働きかけで算数・数学パワーアップ教室への参加なりドリカム教室の参加につな

がるっていうことは非常に大事なことだと思うんです。まさに中高連携なり、学力育成の連携が必要かなということに合致することだと思います。そのためには、教育長も申しましたように、学校の先生方がそれぞれどういった事業だということをよく認識していただく必要があります。特にドリカム教室については、今回初めての取組ですので、当然学校の先生方としてはどんなものか分からない中で、配られた資料を見て、こんながあるよという程度だったんですけども、これも来年度からは2年度目になりますし、算数・数学パワーアップ教室のほうも回数を重ねてきておりますので、1回この事業によって児童・生徒にどういう効果が期待できるのかっていうことを学校の現場の先生方がよく理解していただく、認識していただくということがまず必要であると私も思ったところです。それについては、実際に見ていただくほうが、参加した生徒さんにどうだったって聞いてもらうとか、先生のほうから、そういった何らかの取組っていうか具体的なことをしていく必要があるんじゃないかなと改めて思ったところです。

梅津委員

先日ドリカム教室を見させていただいて、やっぱり聞くのと実際見るのと違ってくるなと思うんで、先生方に行って体験していただきたい、視察していただきたいなと思いました。

そのときに、ドリカム教室の保護者のアンケートの中でとてもすばらしいものがいろいろありましたし、でもこの生徒さんたちっていうのはほんの一握りじゃないかなと思って、人数を増やすっていうのは現状難しいようなことをあの場で言っておられましたけども、ぜひ広げていっていただきたいなって。何かすごく楽しそう、楽しく勉強しているっていう雰囲気がとても感じられました。それだったらいいなと思いますし、算数・数学パワーアップ教室もきっかけがないと参加するということはないので、1回行ってみて、よかったら自分が選択すればいいわけで、継続していかなきゃいけないというものでもないので、きっかけをつくるっていうのは大切だ

ろうと思いました。

山本市長

そうですね。先生方にドリカム教室の様子を見ていただいたら、何か昼間に学校で教えている生徒の様子と違うわって刺激を受けられるかもしれませんよね。

大庭委員

チャンスだけはやっぱり平等に与える必要があると思うんですね。結局一番危惧するイメージが、案内文をただ単に、何のコメントもなしに事務的に配る、そういう教師なりがおって、それを家に持って帰るという、これが一番怖いんですね。ですから、何か一言でもいいですからコメントを添えて、口頭で、それで配ってもらいたい。とにかく最低限それはしてもらって、そういういい機会を子どもが失うことがないように、最低限の努力をしていただきたいと思います。

原田委員

先ほど梅津委員がおっしゃったように、チャンスは確かに平等にあって、これだけの予算がつけられているからこそ、たくさん子どもたちに来てもらいたい。けれども人数が限られているというところは、抜本的な何か改善策を持たないと、来てほしい、でももう人数がいっぱいです。知ってほしい、でももう定員オーバーですとなったら、本来の思いが伝わらないし、目的が果たせないのではと思います。保護者としては、安価で学習できる場所、教えていただける場所があるというのは有り難いですが、勉強ができる場所があるというだけでも有り難いと思います。休日にマクドナルドで学生が勉強していたり、EAGAののテーブルで勉強していたりする姿を見ると、勉強する場所がないんだな、自宅では集中できないからきっと外に出て勉強しているんだろうなと感じます。見守る先生がいらないから人数を増やせないというのであれば、場所だけ提供する。教えてくれる先生はいないけれども、ここで勉強してもいいですよというスペースを増やしていただけると、すごく保護者としては有り難いなと思います。

高市教育長

図書館とかで、何か自習室みたいなものってやってなかったかな。

長嶺部長

実は益田市立図書館で高校生が勉強していますが、図書館って一般の方がおられるので、高校生が朝から来てずっと広げると一般の方が使えないという苦情も実は入ったりしてきたんです。とはいえ、益田高等学校がなかなか土曜日、日曜日使えないということで、一時期その市民学習センターの多目的ホールを開放したっていうようなことはございました。いっぱいになるということはないんですが、そういう形で子どもたちの居場所というんですか、遊び場所じゃなくて自分たちが勉強する居場所というのはずっと問題にはなっているんで、どういう展開ができるのかなと。例えば東高校さんにもう一室ほど開放してくださいといって、それができるのかどうなのか。当然光熱水費なんかも使いますし、寒くなるとエアコンも入れたりするので、じゃあそれが本当にいけるのかいけないのかというのはまた相談してみないといけませんし、一応学校としては預かっていますので、何かあったとき誰も見ている人がいませんでしたというのも、これもまた都合があるのかなという、その辺も含めて子どもたちの勉強する場ですね。どうあるべきなのかというのは、いろんなところと協議をしていきたいと思います。

高市教育長

高校だと、ユタラボに委託しているサードプレイスとかで高校生が集まって、勉強やりたい子は勉強をやっているし、わちゃわちゃやりたい子は何かやっているというのは報告では聞いたことはありますけれども。確かに地域にもよりますけれども、例えば東京とかだと、例えば自治体が自習室みたいなのをつくって、いわゆるその地区に住んでいる人だったら使える勉強スペースみたいなのを運営している自治体もあったりはするんですよね。ただ、もう誰かが見守りとか監督者がつくってということじゃあなく、もうただ机と部屋があって、常識の範囲でちゃんと使いなさいよっていうぐらいのところはやっているところもありますけれども、高校生ぐらいなら、中学生ぐらいもいけるかな。なかなか小学生になると多分誰かが見てないといけないっていうところも出てくるのかなと思って、そう

いったところの取組、あとは市民の方々からの要望もどうかというところもあるので、そういったことを聞きながら、いわゆる学校以外のところでの学習できる機会であったりスペースっていうのは、考えていくっていうのは1つ重要なポイントになるのかなというふうに、今、原田委員からもお話を伺いましたけども。

齋藤委員

この全体的な事業、一市民から見ると、市街地に住んでいる子どもたちは非常に救われてきているなっていう感じがします。物理的、距離的な状況もあるとは思いますが、それがちょっと気になる点が1つ。

それから2つ目は、ドリカム事業で480万という予算が計上されて、少ない予算の中でも非常に高額になっています。対象の子どもは僅か数十人という形になると、費用対効果からすればかけ過ぎているお金ではないかという気がします。それからもう一つ、参加している子どもたちの背景ですが、塾に行っているのか行っていないのか。参加するきっかけは何だったのかなど、そこいらをもう少し追求していてもいいんじゃないかなと思います。

それから、これは物理的にみてこれ以上の人数を受け入れるのは難しいという現場の意見もありました。今年度の結果を見て、双方でもっと話し合いをしながら、よりいい方向にするための方策を考えていって欲しいですね。

高市教育長

よろしいでしょうか。齋藤委員からもご指摘いただきましたけれども、来年度に向けてということばかりではないんですけども、やはり事業の改善というのは不断に取り組んでいかないといけないというふうに教育委員会としても思っているところでして、そういった意味で、今年度につきましては東高校に委託をしているので、月1回、必ず東高校と教育委員会の職員が状況であったり意見交換、改善点とか、場合によっては要望であったり、こちらの要望も伝えたりっていう意見交換の場を定期的に持っているところです。そういったところでは、いろいろとご意見いただいたり、こうすれ

ばもっと事業がよくなっていくのではないかっていうのをお互いに意見交換をしながら考えているという状況です。ですので、そういったことも踏まえて、来年度の事業、来年度以降の事業をどうしていくのかっていうのは、今、事務局のほうで考えているところですので、そういったものを踏まえて来年度の事業の公募をするという形、あとは事業の実施の仕方も考えていかないといけないと。例えば市長も申されましたけれども、継続性であったりとかっていうのは非常に重要になってくる事業です。あとは、予算と事業の仕組みからして、予算は4月にならないとつかないので、でも勉強は4月から勉強したい。じゃあ、生徒の募集どうするんだって言ったら、少なくとも前年度に募集をかけないと4月からできない。でも、年度ごとに委託する契約者が変わる可能性がある、前年度でなかなか募集しにくい部分が出てくるところもあるので、今のがどういう結果になるかはあれですけども、複数年での、あまり無期限というわけにはいかないんですけども、ある程度の常識的な範囲での複数年の事業として進めていくっていう必要もあるんじゃないかな。特に参加者の募集と開始時期の問題が大きいので、今年4月に入ってからで、募集が終わって授業が始まったのが7月だったっけ。

杉原参事

最初の授業が始まったのが7月末です。

高市教育長

末でという形になるので、どうしても予算と仕組みの制度を使うと、どう頑張っても7月スタートになる。そうすると、結局半年ぐらいしか、半年以上はありますけども、どうしても短くなっていく。また、年度末までは参加して勉強できるけど、4月になったら3か月ぐらいお休みですって、また8月とかぐらいになったら再開しましょうっていうわけにはやっぱりいけないので、そういったところの事業としての回し方であったり、仕組み自体も工夫をしていく必要はあろうかなというふうには思っていますので、そういったところもどういった仕組みが適当なのかどうなのかについても、1

つは委員の皆さんのご意見もいただきながら、あとはそういったところで规则的に可能なのかどうなのかということも市長部局といろいろ協議をしながら、より安定的に好ましい形にやっていく方法っていうのは追求していきたいなというふうには思っております。

あとは、市街地以外の子たちの参加につきましては、今回の授業を始める上でも教育委員会として非常に気にしていたところです。それは、1つは算数・数学パワーアップ教室の経験を我々としては事前に生かすことができたというふうに思っていまして、算数・数学パワーアップ教室、最初は市民学習センターだけでやっていて、離れたところからの参加がしづらい、そういったところもしやすいようにというところを教育委員会の中でもご意見をいただいて改善をしてきたっていうところもあったので、今回は事業をするに当たって、送り迎えが必要な子の送迎もやってもらうという形で、3名ぐらいの方が送迎のシステムを使って通われているという状況です。ただ、そこがどこまで伝わっているのかっていうところもあるので、もうちょっとそこら辺も宣伝の仕方であったりとか、もしかすると想定をしていた仕組みではちょっと不十分で、もうちょっとこう改善してくれば参加しやすくなるっていうところもしかするとあるかもしれないと思っていますので、そういったところの意見であったりとかっていうのも吸い上げて事業の改善に反映をさせていく必要があると思っています。やっぱり市内に、住んでいるところで格差があるっていうのは、これは好ましい状況では全くない。それによって、先ほどもお話があった、いわゆる機会の平等が保てないということは好ましい状況ではないので、必要な予算であったりとか財源を割きながら、そこをきちんと担保していく努力っていうのは教育委員会としても続けていきたい、続けるべきだというふうに考えております。

山本市長

それと、齋藤委員さんのほうから費用対効果というお話をいただ

きましたけども、これは私の私見ですけども、例えばドリカム教室の質がもっともっと高まっていけば、これに行きたいという児童・生徒も増えてくるのが想定されます。そうすると、たくさんの公費をかけて、でも実際来れるのは少数というのはやはり不公平ですので、それなりの自己負担を、ご家庭ということになるかも分かってんですけども、負担を伴って来ていただくものだ。じゃあ、そうすると今度は所得の低いご家庭がはなから来れないということになりますので、そこは例えば所得に応じて学費を減免するだとか、奨学金を付与するだとか、そういったことをして、応分の負担をいただいても参加したいんだというような事業にしていくということとは、私が一番望ましいと思うところです。まだ今年度は始まりですので、生徒さんもしくはご家庭からの自己負担っていうのは極めて低廉なわけですので、見方を変えれば非常に安い塾と同じような扱いなんですけども、やっぱりそこからレベルアップしていくとか、質を伴ったものにしていくということも大事だろうと思います。そういう意味でも、委託先の高校との協議をやって、よりよい授業内容なり、授業だけじゃなくていろんな周辺のものを整えていく余地はまだまだ十分あるんだろうと思っています。

大庭委員

この中高連携学力育成推進事業ですけども、本年度は益田東高校さんがやっておりますけども、先般いただいたものを見ておるんですが、令和6年度の実施案というのが、東高校さん、示されておりますけども、そのその他の欄というところがあるんですけども、一番下に、4月、新規募集開始、令和5年度より継続者は4月より実施ということで、何かもう学校としてはこれを、要するに来年度分からない中でも、もうやる方向でやっておられますね。そういう方向でどうも考えておられるので、そういうところもまた来年度に向けての一つの判断材料になるのかなと。具体的に改善策とか、削除する、あるいは新しく追加するものを表のほうに上げておられますので、そういった意味では参考になるかなと思いました。

齋藤委員

今のお話に併せてですが、今後数が増えた場合、選別方法などいろいろ難しい問題が新たに出てくるだろうと思います。そこいらも慎重に考えておく必要があろうかと思います。それから、これは英語と理科が中心になっていますが学校嫌いの子どもたちがいるのかいないのか、塾に行っている子どもがいるのかいないのか、あるいは学校が面白くないからこっちに行こうとか、ここが逃げ場になっていやしないかなと気になります。そうすると、レベルアップを図ることが1つのハードルになりはしないかとの心配も個人的にはしています。レベルアップを図る視点は大事ですが、もう少し広い視点から子どもたちの実態把握をする必要があると思います。

山本市長

おっしゃるとおりだと思います。特に一番悩ましいのは選別を行うのかどうかということだと思います。参加希望者が増えてくるとは大変望ましいんですけども、その先にはそういった悩ましい課題も出てくるので、そこをどうしてくのか、これはいろいろと検討が必要だと思います。

高市教育長

齋藤委員、また市長からもお話がありましたけども、やはり選抜等々とか、選抜っていうと若干どぎつく聞こえる部分もあろうかと思うんですけども、やはり対象を、どういう方を、児童・生徒を対象としてこの事業を展開していくのかというのは、いずれの段階では恐らく考えていけないといけない、また見直しが必要だろうというふうに思っております。

1点は、例えば先ほど原田委員がおっしゃいましたけれども、いわゆる安価な塾だとか、別の塾にも行っているんだけどこれにも行く、現在は特にそういうところを見ておりませんので、完全に手挙げで参加をしてもらっているという状況です。ただ、あまり数が多くなり過ぎると、そういったところにアクセスしにくい子のための事業とするのかっていうとやはり対象が、また設定が変わってくるだろうと。それでもいいよというふうにするのか、どうするのか。かといって、キャパが限られているので、何らかの形で、よくある

進学塾とかですと入塾テストがあって、入塾を認められる、認められないとかっていうのもあるっていう部分もあったりするとかっていうのも1つあるかと思います。あとは、ご家庭の経済状況も1つ、これは考える必要があるかというふうに思っております。現在、この事業におきましては、要保護、準要保護家庭については、いわゆる自己負担を求めている形で運営をしております。ですので、今1,000円ぐらいの自己負担をいただいているんですが、要保護、準要保護の家庭で、こちらから話をしてということであれば、その1,000円は徴収せず、代わりに市が負担をするという形で対応しているところです。ですので、そういった負担の仕方であったりとか、あとは一応光熱費代ぐらいとかで、実費というぐらいで大体1,000円を徴収しているんですが、齋藤委員もおっしゃっているとおり費用対効果っていう意味ではどうなのかとか、場合によっては受益者負担っていうのが、どの程度が適切なレベルなのかっていうのは今後考えていく必要はあろうかというふうに思っております。人件費の部分もある程度自己負担を求めていくのが適当なのかどうなのかとか、あとは先日も東高校に行ったときにも学校側の説明の中で、委員の皆様もお聞きしたと思うんですけども、なかなか講師の手当が難しいという状況があります。そういった中で、じゃあ講師分も負担してくださいというと、やはりそれなりの講師を集めないと、そろえないといけないというプレッシャーです。これは税金を投入している上でも全く一緒ではあるんですけども、やはり参加される方、自己負担されている方からすると、講師代も一定程度払っているのにというところも出てくる可能性もあるので、そういったところ、まだ始まったばかりですので、状況等々を見ながら自己負担の費用の在り方であったりとか、例えばこの事業の対象者、対象範囲をどうしていくのかっていうのは教育委員の先生方からもいろいろご意見とかいただきながら考えていきたいなというふうに思っております。

齋藤委員 1つ伺いますが、今、ドリカム事業に中学3年生は何人参加しているんですか。

田原課長 ゼロではないんですけど少ないです。

齋藤委員 というのは、継続性重視ということからすると、今在籍している子どもたちを優先していくことになります。そうすると、新たな子どもたちの受け入れ人数は当然制限されてきます。ここにも、新たな問題が生じてきます。

老婆心ながら申し上げておきたいと思います。

山本市長 そのほか、いかがでしょうか。大分ご意見もいただいたようですので、協議については以上でよろしいでしょうか。もし何かこれだけは言っておきたい、聞いておきたいということがありましたら伺いたいと思いますが、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、議事については以上で閉じたいと思います。

いろいろと貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

では、その他に移ります。

その他の事項としまして、せっかくの機会ですので、皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

山本市長 それでは、ないようですので、議事を以上で締めくくりまして、進行を事務局にお返しします。

志田原課長 ありがとうございました。限られた時間ではございましたが、活発な意見をたくさんいただきました。本当にありがとうございました。最後に、部長の長嶺のほうから総括的なお話をさせていただきます。

長嶺部長 すみません、今日はありがとうございました。現場も見えていただいて、算数・数学パワーアップ教室の様子も見えていただいて、この間は東高校へ行って子どもたちの様子も見えていただいて、実際見て

いただいた上での今日の間ということ、非常にいろいろな意見が出されたと思います。

全てというわけにはいきませんが、まず言われたのが、こういった参加をすると非常に楽しく学んでいる様子が分かります。ただ、これが楽しいもので終わらないためにどういうふうを考えていくのか。具体的に自分がこんなふうに伸びていった、こんなふうに変わったということをどう捉えられるかということが要るんじゃないかというようなご意見をいただきました。

あとは、参加した動機という部分をどのように捉えて広げていくのか。あとは、それに対して学校の現場がどのように子どもたちに関わって、働きかけをしているのか。学校の現場のほうもこの状況を見ていただいて、子どもたちの様子をしっかりと見ていただいて、その上で自発性、自主性というのを高めながら、どう整備していきえるのかということもいただけたなというふうに思います。学校現場としての見方というのをもうちょっと見ていただきたいということがあったかと思っています。

あと、人数が増えていったとき、非常にうれしい話なんですが、これはこれで非常に大きな問題があるので、そういった部分をどうしていくのか。また、こうした学びの間という部分をどのように行政として整備していきえるのか。あれだけ楽しそうにいろいろな勉強をしていくということになると、講師がつかないまでも学びの間をきちんと整備していけばもっと変わってくるんじゃないかというふうなご意見もいただいたということです。

あとは、参加されている方、子どもさんたちと、あとは関わっていかうとする我々、それから学校側、そういった部分の質の向上をどのようにしていくのか。かかった経費に見合うような形をどのように担保していくのかというようなこともご意見いただけたかというふうに思います。

あとは、参加している子どもさんの背景、どういうきっかけで参

加されたのか、どういう事情なのか。もっと言うと、これを通して子どもたちの成績がどう変わったのか、変わらないのかということも含めて、そんなことも、それから始めたばかりなので、追跡しながらやっていけたらというふうに思っております。

なかなかこの後、人数が多くなったときどうしていくかというのは今すぐ答えを持っていませんが、先般、東高の教頭先生が全ての子どもさんと面談をされて、半分が終わったという報告は聞いています。詳細についてまだいろいろお聞きはしてないのですが、そういったところで参加されている子どもさんの背景というのもまたこちらのほうで分かるのかなというようなことも思っております。これが算数・数学パワーアップ教室みたいにロコミだったり、保護者からの声かけだったり、どんどん広がっていけば、問題は大きくなるかも分かりませんが、非常に喜ばしい形になっていくのかなというふうに思っておりますので、今日いただいた意見を踏まえて、取り急ぎ新年度予算に反映できるように、こちらとしてもいろいろな準備をしていけたらというように思っています。今日はありがとうございました。

志田原課長

それでは、以上をもちまして会議を閉じさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

＝ 終了時間 15時42分 ＝